

こうはるとぜんしゆうだいろつかん
耕治人全集第六卷

一九八九年九月三〇日発行

著者 耕治人

発行者 株式会社晶文社

東京都千代田区外神田二一―一二

電話東京二五局四五〇一（代表）・四五〇三（編集）

振替東京六一六二七九九

堀内印刷・牧製本

© 1989 Yoshi Kô

Printed in Japan

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で認められた場合を除き、著者および出版社の権利の侵害となりますので、その場合には予め小社あて許諾を求めてください。

〈検印廃止〉落丁・乱丁本はお取替えいたします。

耕治人全集

第六卷



晶文社

監修

中川一政

編集委員

紅野敏郎

中島和夫

保昌正夫

村上文昭

題字

中川一政

ブックデザイン

平野甲賀

I 我が師たち

千家元暦

千家元暦の死 16

志賀直哉と千家元暦 18

千家元暦と新しき村 22

無垢な魂 25

喘ぎながら 30

千家元暦の書簡 34

『千家元暦全集』下巻・解説 55

檻樓 千家元暦さんのこと 62

千家さんと古木さん 古木鉄太郎『折舟』を手にして 64

美しい魂 66

我が師千家元暦 70

千家元暦の世界 73

『耕治人全集』第六卷・目次

武者小路実篤

武者小路実篤

95

『武者小路実篤対談鼎談集』解説

98

米寿を迎えられた先生

103

遠くからの声

武者小路先生をしのぶ

105

武者小路実篤氏の死を悼む

107

愛情の生涯

110

私と新しき村

116

長与善郎

川添いのお住い

119

劇場からの電話

122

川端康成

牛肉

125

蔵書印之一行

129

平林たい子

作家紹介・平林たい子

134

晩年の平林たい子氏

136

平林さんの白樺

138

平林さんを偲ぶ

141

平林さんが亡くなったあと

144

明暗 宮本百合子

148

師匠と友人 中川一政 山本健吉

155

若き日の芥川龍之介

158

島崎藤村

民衆の中の作家

180

島崎藤村

184

イヌ楠の下の島崎藤村氏

「若菜集」の島崎藤村

199

195

作家藤村の誕生

202

II ふるさとへの旅

某月某日

206

熊本風土記

207

日奈久温泉

210

祭礼の夜

216

球磨の流れ

220

父との再会

225

高田蜜柑

230

熊本弁

234

ふるさとへの旅

242

西円寺

245

光と川と海

246

報告の旅

249

III 巡礼

磯部と川原湯

254

人生の哀歓

259

川原湯

265

湿気と温泉

266

滝と蜜柑

271

出雲への旅

276

日御碕まで

288

日向への旅・自費出版

292

十七歳の出来事

297

発祥の地は、隣県に

300

巡礼 武者小路実篤文学紀行

302

IV 美しい生

倪雲林のこと 326

八大山人 332

雑念 341

慊堂先生と華山 343

血縁みたいな 347

ドラクロワ展 349

複製と本物 351

熊谷守一『へたも絵のうち』 353

美しい生 354

V 本と私

私の読んだ新刊書から 360

ゴーゴリと「死せる魂」 360

ビオルンソンと「日向丘の少女」

368

ラーゲルレーフと「沼の家の娘」

377

ジョルジュ・サンドと「愛の妖精」

383

平林たい子氏と「耕地」

388

本と私

396

尾崎秀樹著『生きているユダ』

398

ロマン・グーリ著『アゼーフ』

400

目の前にひらけた世界

402

名著発掘『聖フランシスの完全の鏡』

406

『中村地平全集』第一巻

408

四十年 フローベール『ジョルジュ・サンドへの書簡』

410

VI 私小説と作者

詩とは

416

『結婚』あとがき

418

『不良女学生』あとがき

420

私の処女作と自信作

421

『詩人 千家元麿』後書

423

私の知られざる傑作

424

『喪われた祖国』

433

詩と観念

435

『懐胎』自序

440

『一條の光』前書き

441

読売文学賞を受賞して

445

私小説と作者

447

『詩人に死が訪れる時』あとがき

449

『詩人に死が訪れる時』のこと

453

私の詩

455

やっと描き尽くす

457

『うずまき』あとがき

458

『母の霊』あとがき

460

『料理』あとがき

461

スケッチブックに書いた詩

463

『耕治人全詩集』自序 五十年間の詩の軌跡

467

向こうからやってきた

『耕治人自選作品集』あとがき

乗り移る

482

477

VII 明け方のひととき

すばらしき風呂桶

486

五十号を祝う

487

甘党辛党

488

映画『あやに愛しき』評

491

正気と気違いの境から

493

局外者のひとり言

495

尾崎士郎訪問記

497

移り変り 498

青くなったり赤くなったり

500

発狂 502

心電図と入浴 504

病院で思い出したこと 506

心臓の位置 508

風信 511

私の近況 512

家も病んだ 514

私の名前 516

受賞式の日 519

卒論 522

捨身 526

存在の根元 528

咀嚼 531

辿りつく

535

なにかを求めて

537

女性の自然な美しさ

541

私小説家の運命

544

明け方のひととき

548

〔付録資料〕

我が家

554

葉桜の下に立ちて

555

暗夜の対話

556

解説

久保田義夫

563

I

我が師たち